

たばこの煙は子どもへの虐待

若い女性の喫煙者が増加するとともに、妊婦の喫煙者も急増しています。前回は未成年者の喫煙の健康被害について述べましたが、妊婦の喫煙も子どもに深刻な影響を与えます。

妊娠中に喫煙していると、低体重の児が出生してくることは良く知られています。それは、たばこに含まれるニコチンが原因で子宮血管が収縮し、胎児への血液供給が障害されるためです。また、胎児脳への血流も少なくなり、神経細胞にも影響を与えますので、小さいだけでなく、知能の発達も障害されます。

妊娠したら禁煙するという女性がいますが、妊娠すると精神的に不安定になり禁煙はより難しくなりますので、妊娠する前に止めることです。胎児だけでなく、タバコの煙を乳児が吸うと、乳幼児突然死症候群のリスクファクターであることが知られています。受動喫煙による、知能発達障害や身体発育障害、呼吸器への悪影響など乳児への健康被害が明白になっています。子どものいるところでの喫煙は、まさに「子どもへの虐待」そのものです。